

〔話題〕

ドイツ・ベルリンにおける 千葉大学グローバル化拠点形成に向けて

森 千里^{1,2)} 柏原 誠³⁾ 戸高 恵美子¹⁾
鈴木 都¹⁾ 中岡 宏子¹⁾

はじめに

予防医学センターは昨今の急激なグローバル化の流れの中、ヨーロッパの大学との国際連携活動を進めている。2014年には、ドイツの首都ベルリンで公衆衛生や予防医学に関する合計3回の日独シンポジウムを行った。

第一回の日独シンポジウム（2月18日）については、2014年8月に発行された千葉医学雑誌90巻4号に『日独シンポジウム「日本とドイツにおける予防医学と公衆衛生」を終えて』と題して、その背景やシンポジウム概要について報告させていただいた。その報告の中で、現在我々が設置に向けて準備している3大学（千葉・金沢・長崎）先進予防医学共同大学院事業の国際連携とヨーロッパの公衆衛生大学院の計画進行状況も合わせて紹介しているので興味のある方は参照されたい。

ところで、千葉大学は昨年の文部科学省スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創生支援」（タイプB: グローバル牽引型）に「グローバル千葉大学の新生 - Rising Chiba University -」で申請し採択された。この申請の中には、本学がベルリンにキャンパスを持つ構想が含まれている。

予防医学センターもこの構想の地固めのためこ

れまでもまして積極的にドイツとの連携を進め、少しでも早く千葉大学ベルリンキャンパスが整備されるよう努力を惜しまぬ所存である。

本稿では、昨年第二回、第三回日独シンポジウムの様子を報告する。

I. 第二回日独シンポジウム『森鷗外と公衆衛生の国際史』（2014年10月11日）

現在、森鷗外は作家として知られているが、「舞姫」の舞台となったベルリンへの留学は陸軍軍医としての渡独であった。彼がドイツ、特にベルリンにおいて衛生学を学んだことは日本の公衆衛生史上重要なターニングポイントであった。

エボラ出血熱などで近年特に関心の高まっている新しい感染症対策や医療の国際化などのグローバルな公衆衛生を論じる際には、まず日本の公衆衛生の歴史を振り返り、新たな展開や国際視点に立って公衆衛生を考察することが重要なことである。

このような背景を出発点とし、第二回日独シンポジウム「森鷗外と公衆衛生の国際史」が、千葉大学予防医学センター、フンボルト大学、在ドイツ日本大使館の共催により、フンボルト大学本校舎の大講堂（Große Senatssaal）を会場に、徳久

¹⁾ 千葉大学予防医学センター

²⁾ 千葉大学大学院医学研究院環境生命医学

³⁾ シャリテ・ベルリン医科大学

Chisato Mori^{1,2)}, Makoto Kashiwabara³⁾, Emiko Todaka¹⁾, Miyako Suzuki¹⁾ and Hiroko Nakaoka¹⁾: Globalization of Chiba University based on “Chiba University Berlin Campus”.

¹⁾ Center for Preventive Medical Sciences, Chiba University, Chiba 263-8522.

²⁾ Department of Bioenvironmental Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba 260-8670.

³⁾ Berlin School of Public Health, Charité-Universitätsmedizin.

Phone: 043-226-2017. Fax: 043-226-2018. E-mail: cmori@faculty.chiba-u.jp



写真1 フンボルト大学本校舎正面玄関フロアーにて。

剛史 千葉大学長，齋藤 康 前千葉大学長，宮下孝之 在ドイツ連邦共和国臨時代理大使のご臨席のもと開催された（写真1）。

登壇者には，フンボルト大学から同大学付属森鷗外記念館館長のハラルド・ザロモン先生，ベルリン自由大学からフランク・ケーザー先生，WHO（世界保健機関）からは中谷比呂樹事務局長補にご来伯いただいた。

シンポジウムでは，まず開会の挨拶に徳久学長が登壇され，今後千葉大学のドイツでの学術連携強化・推進の方針が述べられた。これにより，来場者の本シンポジウムの講演内容への関心だけでなく今後続く本学の事業への関心が高まった（写真2）。

講演では，まずハラルド・ザロモン先生が「森鷗外と知識の多様性」と題してお話され，続いて筆者森により「森鷗外とドイツと公衆衛生」，次にフランク・ケーザー先生による「鷗外と赤十字社の歴史」，そして最後に中谷比呂樹先生により「鷗外の果たした役割を通して日独が果たしうるグローバルヘルスへの貢献を考える」が続いた。

講演を通して，森鷗外という一人の人物を軸にドイツ，日本の公衆衛生についてさらには聴衆をローカルからグローバル思考へと導く構成になっており，参加者からの好評をいただくことができた。

講演の後は会場からの質問を受ける形で活発な



写真2 徳久学長挨拶の様子



写真3 登壇者全員による質疑応答の様様

ディスカッションが行われた（写真3）。

2014年は、森鷗外渡独130周年の年で、併せてフンボルト大学付属森鷗外記念館も開館30周年という節目の年であり、在独日本大使館より記念事業の一環として何か開催したい、というお申し出をいただいたことが発端で本シンポジウムの開催となったが、筆者としても大変ありがたいことであった。

II. 第三回日独シンポジウム『子供の健康』 (2014年12月1日)

第三回は、シャリテ・ベルリン医科大学公衆衛生大学院（BSPH）と共に会場をベルリン日独センターに移し、「子供の健康」をテーマに開催した（写真4）。

第一回同様、冒頭では中根 猛 在ドイツ連邦共和国特命全権大使、坂戸 勝 ベルリン日独センター副事務総長、ジャクリーン・ミュラー＝ノルドホーン教授（BSPH）に開会のご挨拶を頂いた。

講演は二部制で行われ、第一部ではテーマを「環境と放射線の子供への影響について」とし、筆者森が司会を務め、高村 昇教授（長崎大学）「長崎、チェルノブイリ、福島 of 教訓」、マーク・ピアース博士（ニューカッスル大学）「小児期のCTスキャンによる癌リスク」の二講演があった。



写真5 左から中根 猛大使、筆者の森、坂戸 勝副事務総長

休憩を挟み第二部ではジャクリーン・ミュラー＝ノルドホーン教授（BSPH）の司会の元、ヨースト・ルイテンベルグ教授（アムステルダム大学）による「百日咳－公衆衛生的問題・国際的な取り組みについての考察」の講演が行われた。講演の後は、会場から多くの質問が寄せられ、活発な質疑応答となった（写真5）。

III. ベルリンにおける千葉大拠点形成に向けて

予防医学センターは、ドイツ・リウマチ研究所ベルリンとの間でInternational Cooperative Research Center (ICRC)-Berlinを共同で設置することに同意し、アンドレアス・ラドブリュッフ・リウマチ研究所長と徳久学長との間で、2014年10



写真4 ベルリン日独センターにて、中根 猛 在ドイツ連邦共和国特命全権大使を中心に関係者集合写真



写真6 徳久学長（左）とラドブリュッフ研究所長（右）との調印式の様子

月10日契約書調印がなされ、今後研究面での連携もさらに強化していく予定である（写真6）。

今後の計画としては、継続的に日独シンポジウムやベルリン・シャリテ医科大学との共同大学院集中講義（2015年8月24日～28日）等を行って行く予定である。

千葉大学が申請し採択された「グローバル千葉大学の新生 - Rising Chiba University -」についての詳細は以下のHPを参照されたい。

参照: http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/09/1352218.htm

http://www.jsps.go.jp/j-sgu/h26_kekka_saitaku.html

http://www.jsps.go.jp/j-sgu/data/shinsa/h26/sgu_chousho_b01.pdf

「グローバル千葉大学の新生」事業は10年にわたるプロジェクトである。今後10年かけて、ベルリンに本学のヨーロッパ拠点となる千葉大学ベルリンキャンパスを作り上げる構想の足固めのため、予防医学センターとしても全力で取り組みたいと考えている。

予防医学センターは今後もドイツおよびヨーロッパでの活動展開を加速するためにベルリンにサテライトオフィスを設置し、ライプツヒヤデュッセルドルフ等のドイツの大学、さらにはヨーロッパの他の大学との連携を進め、学生交流も本格的に進めていく予定である。2015年には医学部学生2名がシャリテ医科大学での研修を行う事が決まっており、現在予防医学センターが中心となって医学薬学府と進めている先進予防医学共

同大学院（千葉大・金沢大・長崎大共同博士課程大学院）の学生募集もベルリンで行う事ができないか前向きに検討を始めている。

「グローバル千葉大学の新生」事業では、2016年に千葉大学ベルリンキャンパスキックオフシンポジウムを開催することがすでに計画されている。予防医学センターとしては、キックオフシンポジウムの際に具体的な活動計画を発表できるように活動を推進していく。

おわりに

予防医学センターが平成25年度から始めたヨーロッパへの国際展開活動（研修、シンポジウム、インターン・学生派遣等）に、これまで学長を始め教職員、大学院生・学部学生など延べ100名以上の方にご参加いただいたことに厚く御礼申し上げます。

国際社会の中で日本が積極的に活動していく上で、人材育成を担う大学のグローバル化が大きく期待されている。医学分野では、明治以降に日本の近代医学の礎を築くために多くの若者がドイツに学びその知識や技術を日本に持ち帰ってきている。そして、今、ドイツと日本の両国は、少子化、高齢化、環境問題等で政治・経済面での協力はもちろんのこと、医学を含めた学術分野や文化においても、交流・連携の範囲はますます広がっている。

予防医学センターのこれまでの活動が、今後の本学のグローバル化の基盤となり、日独大学間の新たな架け橋となることを願う。

SUMMARY

Recent rapid globalization of the society has urged Japanese universities to be globalized. Last year, Chiba University applied for “Fund for Super-Globalization of Japanese universities” by the Ministry of Education, Culture, Sports Science and Technology in Japan, and chosen to be supported. The Center for Preventive Medical Sciences (CPMS) has worked to develop a network between Chiba University and German universities in the past 5 years, and will play an important role to open the Chiba University Berlin Campus in this new project of Super-Globalization of Chiba University. In 2014, CPMS organized three Japan-German symposium in Berlin, regarding the

history of Japan-Germany relationship of public health, history of international public health and Ohgai Mori, and children's health. Year 2014 was the 130th memorial year of Ohgai Mori's visit to Germany and 30th memorial year of Ohgai Mori Memorial Hall of Humboldt University, and Japanese Ambassador

to Germany, His Majesty Takeshi Nakane gave an opening remark at each symposium. CPMS will expand its network not only in Berlin, but other universities in Germany and Europe, and will be a bridge between Chiba University and Europe.
